

平成14年度長崎大学薬学部公開講座

薬学講座 - くすりの科学 -

第2回 「薬剤師職能を支える薬学の教育と研究」

7月18日(木)午後7時

長崎大学医学部附属病院助教授・副薬剤部長
同 医歯薬学総合研究科生命薬科学専攻助教授

中嶋 幹郎 (治療薬剤学研究室)

近年の生命科学と科学技術の著しい進歩によって、薬学の知識と技術の量は膨大化すると同時に細分化され、さらに高度化している。また、医療の分野では、薬剤師の資質の向上が強く望まれており、21世紀の高度先進医療に対応できる臨床薬学領域の教育研究体制の充実が薬学部教育に対する社会的ニーズとなっている。しかし、薬剤師および薬学教育研究者としての素養と能力、問題探求解決能力と生涯学習能力、患者を中心とした薬学の倫理感など科学性と社会性をともに身につけた高度専門職業人としての医療人の育成を目的とする専門教育が、これまでの薬学部教育においては十分認識されておらず、現在の薬学教育カリキュラムでは、今日の薬学研究、医療現場および一般社会から強く求められている内容に対応できていないのが現状といえる。そこで、国公立大学薬学部長会議では、昨年、薬学部教育モデルコアカリキュラム案を作成し、現在の社会的ニーズに対応できる新しい薬学部における教育研究体制の指針を提案した。

一方、長崎大学では、大学院教育研究の学際化と高度化を図るため、従来の医学・歯学・薬学研究科を発展的に融合し、平成14年度より医歯薬学総合研究科を構築した。従来の薬学研究科の大部分は生命薬科学専攻へ移動し、世界に通用する医薬品の独創的な創製ができる研究教育者の育成および医療の分野において広く活躍できる高資質な薬剤師の育成を通して、「ヒトの健康」への貢献を目指し、薬科学と医学・歯学の学際領域の最先端において活躍できる人材の養成に着手した。

このような薬学部の教育研究体制の充実に伴い、これからは臨床実習

経験を持ち、医療人としての資質教育を十分に受けた薬剤師の輩出が期待されるが、一方で今の薬剤師にとっては、生涯学習により積極的に自己研鑽して行くことが社会から強く望まれている。

本公開講座では、新しい薬学部教育モデルコアカリキュラム案の内容と長崎大学医歯薬学総合研究科の教育研究体制について概説し、さらに、最近1年間に開催された医療薬学関連学会の内容を紹介することにより、薬剤師職能を支える薬学教育研究分野の最近の動向を概説する。併せて、独立行政法人化ならびに診療報酬包括化に関する国立大学病院の動向についても紹介する。